ヒロシマで思う平和

愛媛大生2人 誓い新た

広島市の平和記念式典に参加し原爆ドームなどを訪れた愛媛大生＝6日午前10時5分ごろ

広島原爆の日に合わせ、愛媛大の学生2人が広島市を訪れた。6日に開かれた平和記念式典に参加して核兵器の廃絶を願い、原爆ドームなども巡って平和について考えた。

2人は法文学部3年の中小路菜三子さん(20)と同1年の船瀬詩帆さん(19)で、時事問題などを研究するサークルに所属。朝鮮半島の完全非核化が約束された6月の米朝首脳会談などを受けて、「ヒロシマ」の雰囲気を肌で感じたかったという。

5日は平和記念資料館などを見学。6日の式典では松井一実広島市長の平和宣言などに耳を傾け、原爆死没者慰霊碑に献花した。平和記念公園の韓国人原爆犠牲者慰霊碑にも祈りをささげた。

広島市の小学生は式典で「人間は美しいものをつくることができます。人々を助け、笑顔にすることができます」と語っており、中小路さんはその言葉を胸に刻んだ。「私たちはどんな人間にもなれる。（核兵器など）恐ろしいものではなく、人々を幸せにできるものをつくっていかないといけない」と誓いを新たにした。

船瀬さんは初めて訪れた広島で「平和に対する考え方が変わった」とし、核兵器の抑止力で戦争を遠ざけても「それが本当に平和と言えるのか」と疑問を投げ掛けた。

（桑原大輔）

(C) 愛媛新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。